

まちなか会議の結果を踏まえ要望書を提出

元年11月16日に「瑞穂町の道路事情について」「買い物困難者の対策について」をテーマとし総務産業建設委員会が、同日、「子供たちを育む環境づくり」をテーマとし厚生文教委員会がみずほまちなか会議を行いました。

町議会では、みずほまちなか会議で出された意見などを参考に両委員会で協議を重ね、2年3月31日に町および教育委員会へ要望書を提出しました。



総務産業建設委員会からの要望書 (抜粋)

道路改善・買い物困難者対策について

町民の方々とグループ討議や意見交換を行い、委員会として会議で頂いた意見等を参考に協議を重ねた結果、「だれもが安心して移動できる道路づくり」「高齢者等が生活必需品などの入手に支障をきたさぬための施策」の必要性があるとの結論に至りました。

そこで、総務産業建設委員会として、道路改善、買い物困難者対策として下記のとおり要望いたします。

- 一、歩行者や車椅子使用等の交通弱者のため、「やさしい道路づくり」を目指すバリアフリー等の推進を望む。
- 一、町道2号線は、瑞穂中学校及び都立瑞穂農芸高校に沿った道路であり、多くの生徒が通学路として利用している。しかしながら、車通勤による南北の移動路としても多くの車両が通行しており、大変危険である。安全対策として、歩行者用カラー舗装、自動車へのイメージ狭窄の有効性の検討や施工も含め、危険回避に向けた道路づくりを望む。
- 一、買い物等の移動時における、交通手段の確保に関する要望が多く、現在、町において、「地域公共交通会議」を立ち上げ検討を始めているが、交通不便地域の早期解消を望む。
- 一、買い物困難者に対して、行政や自治会の一部では支援を始めている。しかしながら、今後、さらに高齢化が進行する中で、身近な商店は減少の一途であるため、歯止めとなる施策、また、高齢者の買い物等に同行し、支援するヘルパー等についての仕組みや体制の検討を望む。



厚生文教委員会からの要望書 (抜粋)

通学路等の安全対策について

町民の方々とグループ討議や意見交換を行い、委員会として会議で頂いた意見等を参考に協議を重ねました。

その中で、通学路等の安全対策について、現状では、保護者や学校の意見・要望をもとに通学路等の合同点検を行っていますが、その結果や対応などが情報発信（公開）されず、また、毎月の定期点検の記録は集約がなされていません。これらはまとめられ情報発信されることで保護者等の安心につながります。

そこで、厚生文教委員会として通学路等の安全対策について、下記のとおり要望いたします。

- 一、合同点検や定期点検の通学路等に関する情報を集約され、ホームページ等により、具体的に情報発信すること。また、改善した内容等を随時更新することを要望します。



山崎 栄 議員 (自民新国会)

今後の防災・減災への対応について



町長 防災協定締結を積極的に進めていく

質問 昨年は台風の上陸により関東地方でも多くの被害があり、我が町も雨による土砂崩れなどの被害を受けた。最近の気候変動の影響で想定できない自然災害も多いが、防災・減災の対応として次の点について伺う。



災害対策本部運営訓練の様子

- 問①** 新庁舎西側の町道3号線の無電柱化。
- 町長** 財源確保など難しい課題もあるが、必要な施策として認識しており、実施を目指して研究していく。
- 問②** 町の災害協定の状況。
- 町長** 現時点で企業や関係機関など32団体と締結している。
- 問③** 大雨時の冠水への対応。
- 問④** 土砂災害警戒区域や避難場所の課題と対応。
- 町長** 普及・啓発活動並びに防災計画、ハザードマップの見直しなど、不断の取り組みが必要。今後も国や都、関係自治体と協議しながら対策を進める。
- 問⑤** 災害時におけるドローンの活用。
- 町長** その他、今後考えられる防災・減災への対応。
- 問⑥** ドローン活用は検討すると既に答えている。効率的で迅速な対応を目指して態勢を整えとともに、防災協定締結を積極的に進めていく。

委員会活動報告

交通対策特別委員会



令和2年1月22日にJR東日本八王子支社、1月30日に都およびJR東日本東京工事事務所へ町と共に要望活動を行いました。

都へ『多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸の早期事業化への強力な推進』を要望

都からは「令和2年度、基本設計など費用の予算を計上した。今後、調査によって浮き出た課題にどう取り組むか。また、住民有志の団体も立ち上がるということで心強い。多摩地域の活性化に向けて努力していきたい。」旨の回答がありました。



JRへ『八高線増便や駅員勤務時間の見直し、車両基地建設ほか』を強く要望

JR東日本に対してはこれまでの増便や乗り継ぎ時間短縮、新駅設置、幹線への昇格などに加え、駅員勤務時間の見直しを新たに要望しました。

JR東日本からは「増便、特に24時台に対しては利用実績から厳しい。乗り継ぎ時間については今後も検討していく。」など、概ねこれまでと同様の回答がありました。また、駅員勤務時間については利用状況を勘案しての判断であり、今後も利用状況によって検討していく旨の回答がありました。